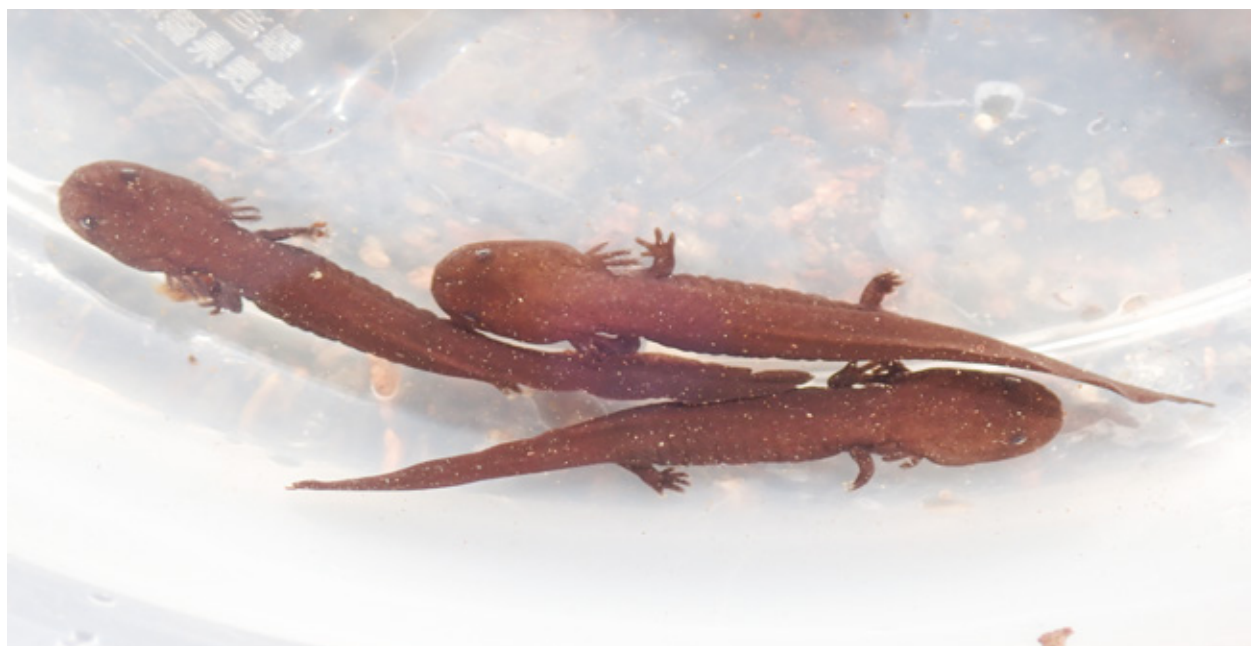




仁淀川支流で見つかるオオサンショウウオ *Andrias japonicus*

写真の動物は、オオサンショウウオの幼生です。全長約 5cm、体重は約 1g しかありません。撮影した場所は、仁淀川の支流です（文化庁から、文化財現状変更許可を受けて捕獲しています）。

四国で見つかるオオサンショウウオは、以前から研究者の間で「四国にもともといる在来生物」であるか、「四国外から人が運んできて放した移入生物」であるか、議論がされてきました。どちらかはっきりしない理由の一つは、「卵や幼生が見つかっておらず自然繁殖の記録がない。」です。博物館では、わんぱくこうちアニマルランド、のいち動物公園、四国自然史科学研究センターそして両生類に興味を持つ有志の面々と協力して高知県のオオサンショウウオの調査を進めてきています。

私たちは、2015 年 2 月 4 日、体の外側にエラが出ていて、産卵巣穴から出てきたばかり



全長 94cm の成体。ここまで大きくなるには数十年かかる。

と思われる 16 頭の幼生を仁淀川の支流で見つけることができました。さらに、2 月 7 日にはこの幼生たちが見つかった地点からわずかに上流

へ遡った場所にある水中の穴の中から、卵塊のカスを見つけ、とうとう四国で自然繁殖が行われていることを確認しました。その後、四国内で新たに繁殖地は見つかりませんが、この場所では毎年幼生を確認しています。

2019 年、ここで見つかった幼生の遺伝子検査が国立科学博物館の研究者によっておこなわれ、「京都府周辺で見ついているオオサンショウウオの遺伝子タイプに極めて近い」と発表されました。検査を行った研究者は、「仁淀川支流で繁殖しているオオサンショウウオは、もともとの川に住んでいたのではなく、だれかが京都のあたりから持ってきて放した可能性が高い。」と言っています。

「四国外から人が運んできて放した国内移入生物」であると考えている人たちは、「四国外から持ち込まれたオオサンショウウオが、とうとう繁殖を始めてしまった。仁淀川支流のもともとの生態系を守るために、早急にこの川からオオサンショウウオを取り除くべきだ。」と考えています。

遺伝子検査で国内移入生物である可能性が高まった仁淀川支流のオオサンショウウオ。今後、私たちはこの動物にどのように対応していけばよいのでしょうか？

（やちもしゅうじ／横倉山自然の森博物館学芸員）

横倉山登山道沿いの植物相と大径木調査

大利卓海※1・前田綾子※2・瀬戸美文※3・押岡茂紀※4・西村佳明※2・藤森祥平※2・渡部雄貴※3・石川愼吾※3

※1：株式会社相愛、※2：高知県立牧野植物園、※3：高知大学、※4：西日本科学技術研究所

はじめに

横倉山は仁淀川と桐見川に挟まれた山塊にあって、南側には馬鹿試しを代表とする石灰岩の巨大な露頭もあり、蛇紋岩も含まれる複雑な地質のため、多様な植物が生育しています。横倉山の植物については、昔から数多くの研究者や研究家に調査されてきており、大倉浩典氏がまとめた「横倉山植物名鑑」では約1300種類（未確認種含む）が挙げられています。

調査概要

植物調査チームでは、第2駐車場～第3駐車場～杉原神社～カブト獄～横倉宮～畝傍山眺望所～カラ池の範囲で、次の二つの調査を行いました。

●植物相調査

植物相調査とは、特定の範囲や地域に生育している植物種を明らかにする調査です。今回の調査では登山道沿いを中心に確認した植物を記録し、花が咲いていたものなど一部を標本にしました。

●大径木調査

横倉山の林を構成する樹木のうち、「大きい」木がどのような分布をしているのか調べました。基本的には胸高直径（地面から1.2mのところ）が70cm以上の樹木について、樹高と胸高直径を測り、位置情報を記録しました。ただし、それぞれの木の種類によって最大になる大きさが違うため、その種類にとって「十分大きい」と判断した場合には、胸高直径70cm以下の個体でも調査しました。



仁淀川の中仁淀橋から望む横倉山



畝傍山眺望所から見る雪の馬鹿試し



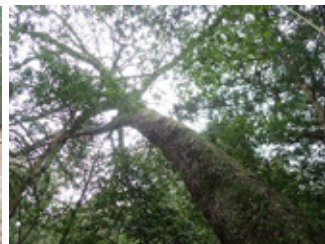
植物を確認しながら歩く調査員



植物を新聞に挟み、標本にする



大径木調査



モミの大径木

調査結果

●植物相調査結果：114科389種類（亜種、変種、品種を含む）の植物を確認しました。

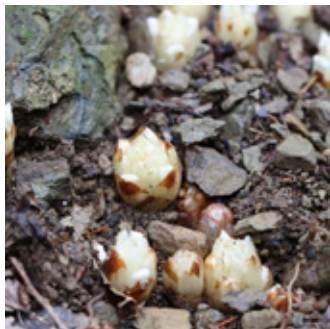
横倉山の絶滅危惧植物（一部）



ヒメノヤガラ（ラン科）
Chamaegastrodia sikokiana Makino et F. Maek.

高知県：絶滅危惧ⅠB類（EN）
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

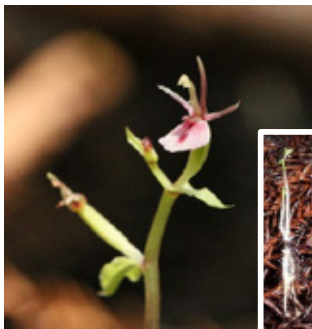
- 菌従属栄養植物
- 開花期：7月～8月
- 暖温帯の林下に生え、共生菌はCeratobasidiaceaeに属する菌で、樹木の根と共生します
- 和名は牧野富太郎が発表（1889）しました



キヨスミウツボ（ハマウツボ科）
Phacellanthus tubiflorus Siebold et Zucc.

高知県：絶滅危惧ⅠB類（EN）

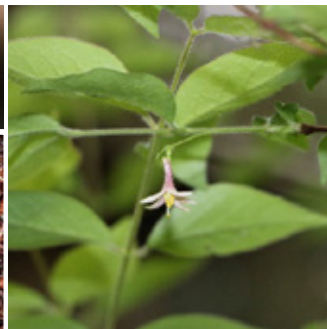
- 寄生植物
- 開花期：7月
- 山地の木陰に生え、カシ類、アジサイ類などの木の根に寄生します
- 千葉県清澄山で採集され、花が弓矢を入れる鞆（うづば）に似ていることからウツボという名前がつけられています



コオロギラン（ラン科）
Stigmatodactylus sikokianus Maxim. ex Makino

高知県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

- 多年生草本
- 開花期：8月末～9月中旬
- 常緑樹林やスギ人工林の林床に生えます
- 共生菌はシロキクラゲ科の菌（菌がないところでは生育できません）



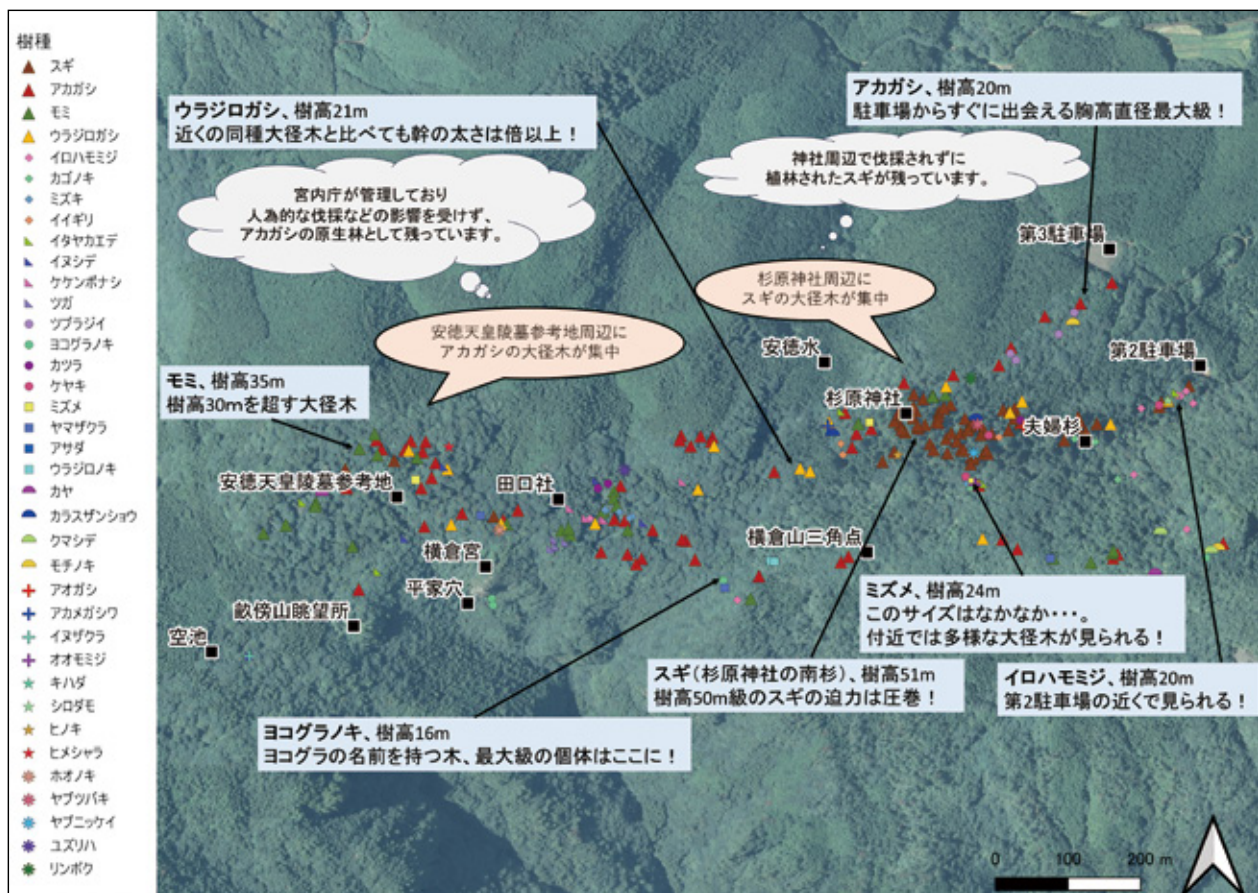
ミヤマウグイスカグラ（スイカズラ科）
Lonicera gracilipes Miq. var. *glandulosa* Maxim.

高知県：絶滅危惧ⅠB類（EN）

- 3mくらいの落葉低木
- 開花期：4月～5月上旬
- 和名は牧野富太郎が発表（1895）しました



牧野富太郎（1895）蘇條書屋植物雑誌（其十九）．植物学雑誌 9:311～315



国土地理院シームレス航空写真を基に調査データを加筆

図2.大径木の分布図

表2. 種類ごとの本数と胸高直径

種 類	本 数	胸高直径(cm)	
		最大	最小
スギ	69	237.0	84.0
アカガシ	56	138.5	53.8
モミ	28	110.5	70.1
ウラジログシ	16	143.2	35.0
イロハモミジ	10	84.1	34.2
カゴノキ	7	56.4	38.4
ミズキ	6	51.5	39.8
イイギリ	5	69.2	52.5
イタヤカエデ	5	78.1	46.2
イヌシデ	5	78.0	52.8
ケケンボナシ	5	62.1	39.2
ツガ	4	96.0	72.0
ツブラジイ	4	128.7	77.4
ヨコグラノキ	4	47.6	23.4
カツラ	3	192.4	75.2
ケヤキ	3	92.8	55.4
ミズメ	3	142.2	85.0
ヤマザクラ	3	48.6	39.3
アサダ	2	79.3	46.9
ウラジロノキ	2	36.5	30.3
カヤ	2	45.1	42.7
カラスザンショウ	2	42.0	41.7
クマシデ	2	84.4	53.9
モチノキ	2	44.9	44.4

1本のみ計測 (胸高直径(cm))

アオガシ (38.5)、アカメガシワ (43.1)、イヌザクラ (52.8)、オオモミジ (56.2)、キハダ (53.9)、ヒノキ (130.6)、ヒメシャラ (60.4)、ホオノキ (43.6)、ヤブツバキ (30.1)、ヤブニツケイ (31.2)、ユズリハ (65.12)、リンボク (17.51)

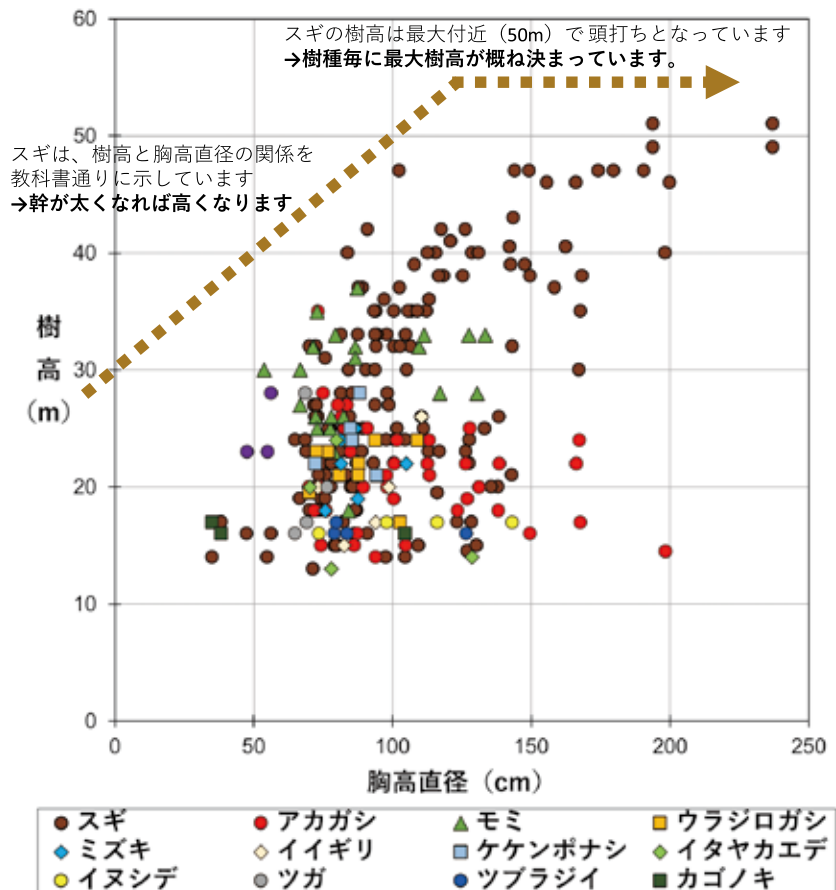


図3. 樹高と胸高直径の関係

横倉山自然の森博物館での活動



宮地 萌

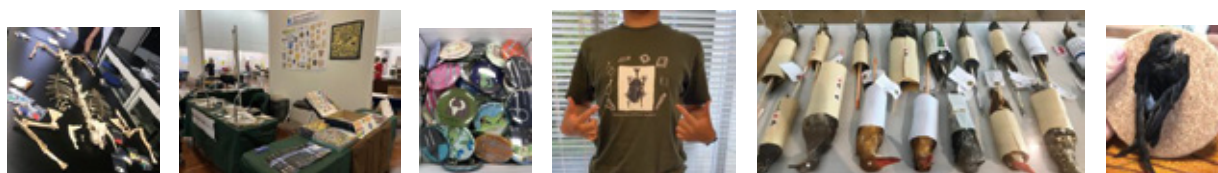
令和4年4月より、越知町教育委員会所属の地域おこし協力隊として活動している宮地萌です。令和7年の3月末で私の越知町での協力隊活動は終わりを迎えます。ここでは、博物館を拠点にして行ってきたこの3年間の活動の一部を紹介させていただきます。

私のミッションは「横倉山自然の森博物館の活性化」です。学芸員資格の所持が条件の隊員で、収蔵品の整理や展示物の紹介、企画展の運営など学芸員としての活動を多くしてきました。

最初の年はまず、博物館を知ることや課題を知ること、地域への知識を深める事に重きを置いて様々な場に積極的に参加しました。そののち、課題解決のために活動を始めました。ひらかれた博物館を目指すことを考え、補助金を活用して講座を開催したり、子供でも分かりやすいようなかみ碎いた表現の掲示物を作成したり、体験型の展示物を加えたりしました。



また、元々絵を描くことが好きなので広報物へのイラストを添えるなど、これまで以上にやわらかでとっつきやすい印象を与えられるように意識して取り組んでみました。博物館への興味のきっかけとなれば、と地域の植物や動物、標本をモチーフにしたグッズも作成しています。加えて、標本づくりに関する勉強も続けていて、一部のものは技術を伝える側としての活動も始めました。協力隊としての活動は終わりますが、卒業後も横倉博の活動のお手伝いができればと考えていますし、また執筆の機会をいただくかもしれません。ぜひ、今後ともよろしくお願いいたします。



(みやじ めい/地域おこし協力隊)

博物館行事

企画展

「第5回越知小中学校学習発表」

2024年12月21日(土)～2025年2月2日(日) 入場者数552人
越知小学校と中学校は、越知町にお住いのみなさまとのつながりを深めながら、自然や歴史、人々の生活などについて学び・知り・伝え合う学習をしています。今年度も児童生徒たちはたくさんの体験活動を行い、学びを深めました。児童生徒たちが学習を通じて学んだことや感じたことを、越知町内外の多くのみなさまに見ていただきたいと考え、博物館を会場に企画展として紹介しました。



自然観察会「横倉山の生きもの調べ」

「仁淀川の石をみがこう」

10月20日(日)〔講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:10名〕

仁淀川の河原から拾ってきた石を磨いて、石本来の色合いを観察するイベントを開きました。今年は緑色変成岩だけをやってみました。参加者のやる気とセンスによって、磨かれ具合に差ができて面白かったです。



「横倉山の樹木」

11月17日(日)〔講師:石川慎吾(高知大名誉教授)、参加者:6名〕
横倉山の第3駐車場から杉原神社までの登山道で見られる樹木についての観察会を行いました。講師は高知大学名誉教授の石川慎吾先生にお願いし、登山道を歩きながら、周りに生えている樹木について、見分け方や生態、人とかかわりなどについてのお話を伺いました。



「冬の鳥たち」

12月15日(日)〔講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:11人〕

宮の前公園で野外観察を行う予定でしたが、観察会の時間に雨が降ってしまいました。外にはいかずに室内で、講師の谷地森が高知大学の講義で用いている資料を使って、高知県と横倉山の野鳥についてお話をしました。



「博物館のまわりで動物を写そう」

1月19日(日)〔講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:2名〕

博物館のまわりで生活する動物を確認するために、ロボットカ

メラを仕掛けました。参加者が見つけた動物が通っていきそうな4か所を調査地点に決めました。3週間の撮影の結果、タヌキ、ハクビシン、テン、キジバト、シロハラが確認できました。



「巣箱を使う動物たちを写そう」

2月16日(日)〔講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:4名〕

巣箱とロボットカメラをセットで設置して、樹上に暮らす動物を確認するイベントです。博物館から第三駐車場までの道のまわりに、4箇所仕掛けてみました。



講座「四国の自然・横倉山の自然」

「愛媛県西予市の地形・地質の上で育まれた自然と文化 - 四国西予ジオパークが伝えたいこと -」

10月6日(日)〔講師:榊山 匠(四国西予ジオパーク学芸員)、参加者:合計14名〕

2013年にジオパーク認定を受けた愛媛県西予市にできた四国西予ジオパークから榊山学芸員にお越しいただきました。四国西予ジオパークが、どのような地形・地質が評価されて認定を受けたのか、この10年の様々な取り組みについて紹介いただきました。



「高知の化石から探る太古の地球」

11月3日(日)〔講師:近藤康生(高知大学理工学部教授)、参加者:14名〕

高知大学で長年、高知県から産出される化石を研究されている近藤教授にお越しいただき、高知で見つかった化石を中心に、貝類など、地質時代の生物やその生息環境について最新の研究成果、そして横倉山から産出される化石の特徴についてお話をいただきました。



「あゆの病気のお話」

12月8日(日)〔講師:今城雅之(高知大学准教授)、参加者:17名〕

あゆの病気を研究されている今城准教授においでいただき、「きれいな川なのにあゆがいない」、「あゆが採れない」、「あゆが釣れない」などには、病気が関わっていることを、これまでの研究成果とともに、病気にかかっている実物のあゆも用いてお話いただきました。



「オオサンショウウオのおはなし」

1月5日(日)〔講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:19名〕

越知町を流れる仁淀川とその支流では、四国内のほかの地域に比べてオオサンショウウオの情報が多く、最近15年ほどの間に四国でも自然繁殖が確認されたこと、外来生物法と国内外来種問題のことなどについて紹介しました。



「旅立ちの詩～地域おこし協力隊卒業～」

3月2日(日)〔講師:宮地 萌(地域おこし協力隊)、参加者:11名〕
宮地隊員が当館の活性化をめざして行ってきた3年間の協力隊活動を丸ごと紹介しました。講座の中では参加者とともに館内の変化を体感する時間を設け、込められた思いなども共有してもらいました。



友の会だより

奈良県視察研修1泊2日

11月23日(土)～24日(日)〔参加者:18名〕

初日は山の辺の道の北コースの石上神宮、弘仁寺と在原神社(在原寺跡)、なら歴史芸術文化村へ。翌日は箸墓古墳の周囲を歩き、石舞台古墳では古墳の中に入りました。参加者のみなさんはガイドさんの説明やご住職のお話に熱心に耳を傾けていました。



おちぞら★冬の星観察会

1月26日(日)〔参加者:6名〕

今回も環境省が取り組んでいる「令和6年度冬の星空観察」の「天の川観察シート」にならって観察を行いました。まず室内で観察する星座を覚えるため星図に星のシールを貼って位置や形を確認しました。その後外へ出ると多少雲がありましたが、無事観察することができました。



お New



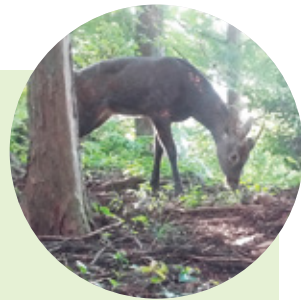
(みやじ めい / 地域おこし協力隊)

横倉山ミニ歳時記

■横倉山の東側で撮影されたニホンジカ

2019年から2023年にかけて行われた横倉山生物総合調査では、ニホンジカは主に空池よりも西側で確認されました。桐見川地域では狩猟によりオスもメスも捕獲されていることや空池に設置した防鹿ネットのまわりに設置した自動撮影装置では冬期を中心に頻繁に撮影されていることなどから、すでにかかなりの個体が横倉山周辺に住み着き始めたことがわかりました。

2024年には、9月から11月にかけて横倉山の東側である横倉山自然の森博物館から第三駐車場までの車道のまわりに8台の自動撮影装置を設置して調査をしました。この調査の際、博物館から直線距離で約1km、標高250mの調査地点で、写真の個体が撮影されました。博物館ではこれまで、越知中学生や四国自然史科学研究センターと協力してこの車道のまわりで調査をしてきていますが、ニホンジカが写ったのは初めてです。ニホンジカの分布が広がってきています。



(やちもり しゅうじ／横倉山自然の森博物館)

《《令和7年度上半期行事予定》》

【博物館】

企画展

- ～5月25日(日) 越知の人たち～広報おち編～
- 7月5日(土)～9月7日(日) 海洋堂ソフビ展
- 9月20日(土)～11月30日(日) 横倉山の植物標本展

自然観察会「横倉山の生きもの調べ」

- 4月13日(日) スミレの仲間たち
- 5月17日(土) カエルの夕べ
- 6月15日(日) 地質関係(内容検討中)
- 7月20日(日) 坂折川の魚
- 8月16日(土) ムササビとコウモリの夕べ
- 9月7日(日) ココロギラン

講座「博物館教室(四国の自然・横倉山の自然)」

- 7月 海洋堂ソフビ展関連「造形師対談」

【博物館友の会『フォレスト・クラブ』】

- 6月7日(土) 仁淀川水質調査
- 6月22日(水) ヒメボタル観察会
- 7月の平日 横倉山植物保護活動(越知小学校生徒と一緒に)
- 8月17日(日) おちぞら★夏の星観察会

※横倉山自然の森博物館展示解説員養成講座

博物館の展示室で、館の成り立ち、展示の説明、「推し」の標本紹介などを、来館者にお話していただける方を育てるための連続講座の開催を令和7年度に計画しています。講座の対象者は友の会会員限定です。詳細は、7月末に発表します
“横倉山自然の森博物館に、一步踏み込む仲間”になりませんか？

友の会『フォレスト・クラブ』に入会しませんか？

フォレストクラブとは、横倉山自然の森博物館の展示や教育活動を通じて、横倉山の自然史に関する知識や関心を高め、メンバー相互の親睦をはかる会です。みなさんも行事イベントを通して、仲間と一緒に学びながら交流しませんか？

年会費や特典などお問い合わせは
友の会事務局へ

友の会事務局(博物館内) 0889-26-1060

高知県越知町立

横倉山
自然の森博物館



THE YOKOGURAYAMA
NATURAL FOREST
MUSEUM, Ochi

〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737番地12
TEL0889(26)1060 FAX0889(26)0620
<https://www.yokogurayama-museum.jp/>

- 開館時間：午前9時より午後5時まで
最終入館は午後4時30分
- 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)
12月29日から翌年の1月2日まで
- 入館料：大人……………500円(※20名以上の団体は100円引き)
高校・大学生……………400円
小・中学生……………200円
- 越知への交通
高知——JR特急 約30分——佐川——バス 約15分——越知
JR普通 約50分

